

卒業時の看護技術習得状況—実習体験状況と習得状況の関連—

新潟医療福祉大学 看護学科・
袖山悦子, 中山和美, 坪川麻樹子, 宇田優子

【背景】

今日の医療環境は入院日数の短縮、少子高齢社会に加え、疾病構造・国民意識の変化があり、それに対応した医療提供体制確保の構築の中で、看護師基礎教育においては充実した臨地実習を行い、実践能力を培うことが求められている¹⁾。

専門高度化した医療の現場では、資格のない学生が実習で習得する看護技術の範囲が狭められ、就職後にリアリティショックを受ける者や早期退職をする者もいることが指摘され、看護技術の種類と卒業時の到達度が示された²⁾。A大学では大項目18と中項目118の看護技術項目を抽出した。先行研究では、学生の看護技術習得状況については、診療の補助に関する項目は実習経験が少なく実施する自信も低い傾向がみられている。A大学の卒業生の実習体験状況と習得度の実態を調査し、卒業時に習得することが期待されている看護技術の習得に向けた示唆を得ることを目的とする。

【方法】

調査方法:平成23年度卒業見込みのA大学看護学科4年全員に平成24年2月28～3月14日まで、A大学で検討した基礎看護技術中項目118について、調査用紙を配布した。

調査内容:[看護技術の体験状況]は、「一人で実施」「指導者と共に実施」「見学」「未経験」の4段階評定とした。[看護技術の習得度]は、「自信がある」「まあまあ自信がある」「あまり自信がない」「自信がない」の4段階評定とした。

分析方法:[看護技術の体験状況]は、「一人で実施」「指導者と共に実施」「見学」「未体験」で単純集計をした。[看護技術の習得度]は「自信がある」「まあまあ自信がある」を【自信がある】、「あまり自信がない」「自信がない」を【自信がない】の2群に分けて割合を算出し、[看護技術の体験状況]と卒業時の到達度Ⅰ・Ⅱを関連させて考察した。なお、卒業期到達度Ⅰは、単独で実施できる、Ⅱは指導のもとで実施できるである。中項目118のうち、卒業時到達度がⅠ・Ⅱの項目は72項目である。なお、体験割合、習得割合が70%以上を高い、体験割合、習得割合が30%未満は低いとした。

倫理的配慮:研究の意図を文書と口頭で説明し、同意書にて同意を得た。また、自由意志での参加であることを説明した。

【結果】

回収74名のうち、同意の得られた学生63名(85.13%)、有効回答率は62名(98.4%)だった。

1. 看護技術の体験状況と卒業時到達度Ⅰ・Ⅱ

「一人で実施」「指導者と共に実施」と回答した割合が高い看

護技術は、37項目(51.4%)だった。「一人で実施」「指導者と共に実施」と回答した割合が低い看護技術は、14項目(19.48%)だった。そのうち、診療の補助技術は、<酸素吸入法><経管栄養法><気道内加湿><点眼・点鼻・点耳><創傷処置><心電図モニター><生体検査時の援助><無菌操作>だった。

2. 看護技術の習得度と卒業時到達度Ⅰ・Ⅱ

【自信がある】と回答した割合が高い看護技術は、21項目(29.2%)だった。【自信がない】と回答した割合が高い看護技術は、23項目(31.9%)、そのうち診療の補助技術は<酸素吸入法><経管栄養法><気道内加湿><創傷処置><心電図モニター><生体検査時の援助><無菌操作>だった。

3. 看護技術の体験と習得度

「一人で実施」「指導者と共に実施」と回答した割合が高い看護技術37項目のうち、【自信がある】と回答した割合が高い看護技術は21項目(56.8%)だった。<おむつ交換>は、94%の学生が体験しているが、【自信がある】と回答した学生は5%だった。「一人で実施」「指導者と共に実施」と回答した割合が低い看護技術14項目のうち、【自信がない】と回答した割合が高い項目は、12項目(85.7%)だった。

【考察】

看護技術体験状況では、体験割合の低い看護技術14項目のうち、診療の補助技術は8項目あった。これらは、卒業時に習得することが期待されている項目であることから、臨地との協力体制を強化していく必要性が示唆された。

看護技術体験割合の低い項目は、【自信がない】と回答した割合が高かったことから、体験が自信につながるものと考えられる。だが、排泄援助の中で<おむつ交換>を体験した割合が高かったが、習得度に結びついていないことから、習得度につながらない項目の背景を検討することも必要である。

看護技術の体験は実習場の特性もあり、体験しやすい項目と体験の機会が少ない項目もある。これらのことも踏まえ、どこで誰が何をどう指導するのかを明確にし、卒業時に習得を期待した項目については責任を持ち、その結果を公表することも必要かもしれない。そのため、学生の主観的評価によらない大学としての評価方法の検討も今後の課題である。

【結論】

1. 実習体験割合の高い看護技術は、学生の習得度に繋がっている傾向がみられた。
2. 実習体験割合の低い看護技術は、学生の習得度が低かった。
3. 実習体験が習得度につながらない看護技術があった。

【文献】

- 1) 厚生労働省:医療提供体制の確保に関する基本方針,平成19年3月。2)厚生労働省:看護基礎教育の充実に関する検討会報告書,平成19年4月。